

電機・情報ユニオン

2014年6月10日 第33号

発行 電機・情報ユニオン

〒105-0004 東京都港区新橋4-24-3

エムエフ新橋601

Tel&Fax 03-6450-1777

Email: denkiunion@gmail.com

リストラ闘争、労働組合運動に活かそう 「日本経済の構造的危機を読み解く」学習会

中央本部は5月11日(日)、東京都南部労働会館で「日本経済の構造的危機を読み解く」学習会を28名の参加で開催しました。

本学習会は、桜美林大学の藤田実教授が2月に上梓した「日本経済の構造的危機を読み解く」への理解をいっそう深め運動の力にしていくために企画したものです。

教材として

運動に役立てる

米田徳治中央執行委員長は開会あいさつで、「この本は、アベノミクスの対抗軸への考え方が明確に述べられ、電機産業も詳しく分析されています。非常に有効な本です。教材としてしっかりと身につけて今後の運動に大いに役立てていくことは重要です」と、学習会の意義を述べました。

藤田実教授から

熱い2時間の講義

藤田実教授は、今回の学習会のために作成したレジュメ「『日本経済の構造的危機を読み解く』を

どう読むか」にそって講義を行いました。

藤田実教授はまず、本書のねらいは

①バブル崩壊以後の日本経済の長期停滞を構造的危機とみなす。

②日本経済の構造的特質が情報通信革命とグローバル化という環境変化に対応できない。

③新たな日本経済の再建策を考える必要がある。ことを強調されました。

続いて、日本経済の構造的な特質、日本経済のグローバル化と外需依存型構造、日本経済の構造的危機、情報通信革命による日本経済の危機増幅、電機産業における競争力低下に関する各項目を順次説明されました。最後に、日本経済再生を展望して、①ローカライゼーションを基盤とする経済社会システムの形成



講義する藤田実教授

5月11日(日)「日本経済の構造的危機を読み解く」学習会



②ディーセントワーク(人間らしい働き方)の実現を

について解説され、電機・情報ユニオンへの期待を述べられ、2時間の講義を終えられました。

理解を深めた質疑応答

講義を受けて、5人から「日本の人口は、今後の100年間で4分の1に。人口減少しながら、持続可能な経済社会とはどのようなものか」「ローカライゼーションの姿を示していくことが必要ではないか」「日立は、家電などの事業を捨てないで、社会インフラ事業に取り込んでいる」「電気機械

の労働者において、パートが減少し、派遣・請負が増加している。その原因は「アメリカ式の会計基準が導入され、目先の利益が追求されおかしくなった。なぜ、導入したのか」などの質問意見が出され、藤田実教授はそれぞれに回答しました。閉会あいさつで、森英一中央本部書記長は「学んだことをリストラ闘争をはじめ労働組合運動に活かしていきましょう。この本を関係者に200部普及していきましょう」と訴えました。

第33号の紹介

- 1面 「日本経済の構造的危機を読み解く」学習会
- 2面 ルネサスリストラかながわ対策会議を結成
米田委員長メッセージ26
- 3面 藤田実教授の出版記念レセプション
高尾山ハイキングで交流 東京支部
- 4面 交流のひろば、告知板